

2. 新庁舎建設の基本的な考え方

(1) 基本理念

基本構想において、基本理念が以下のとおり策定されました。

- ・ 総社愛が凝縮した庁舎
- ・ 災害に強く総社市民を守るたくましい庁舎
- ・ 全国屈指の福祉文化先駆都市を具現化した総社市民に寄り添う庁舎

(2) 基本方針

基本理念を踏まえ、新庁舎建設の基本方針を以下のとおり定めます。

① 障がい者をはじめ、すべての人にやさしい庁舎

- ・ 身体に障がいのある方をはじめ、子どもから高齢者、親子連れ、外国人等、あらゆる人にとっての使いやすさに配慮するユニバーサルデザインの考え方を取り入れた庁舎とします。
- ・ バリアフリー法などの法令を満たすだけでなく、福祉文化先駆都市に相応しい対応を行います。
- ・ 総合窓口を設置し、すべての来庁者にわかりやすい計画とします。
- ・ 授乳室、キッズコーナーを設置し、こども連れの来庁者が使いやすい計画とします。
- ・ 災害時にも高齢者や車いす利用者にとって安全な動線の確保を検討します。

② 市民にとって利便性の高い庁舎（市民サービスの向上）

- ・ 市内に分散している庁舎機能を新庁舎に集約します。
- ・ 分かりやすい庁舎とするため、シンプルな平面計画、絵や記号などを利用したわかりやすい案内計画を行います。
- ・ 同時手続き頻度の多い部署を同一階に集約するワンフロアサービスを取り入れます。
- ・ 十分な待合スペースを確保できるよう、ゆとりある計画とします。
- ・ 市民のプライバシーに配慮し、仕切り付きのカウンターや相談室等を設置します。
- ・ 十分な駐車・駐輪台数を確保します。

③ 効率がよく機能的で、職員が働きやすい庁舎

- ・ 執務スペースは、必要十分な広さを確保するとともに、職員の業務形態に合ったレイアウトを行い、職員が効率よく業務が行える計画とします。
- ・ 関連のある部署を近接配置し、業務の効率化を図ります。
- ・ さまざまな広さの会議室を十分確保し、業務遂行の円滑化を図ります。
- ・ 将来の組織変更や職員の増減に容易に対応できるよう、フレキシブルな計画とします。
- ・ 働き方改革など、多様化する勤務形態に柔軟で効率的に対応する ICT 環境を検討します。
- ・ 良質な行政サービス提供のため、職員がリフレッシュできる環境を検討します。

④市民協働を目指し、市民の交流・活動を支える庁舎

- 市民がさまざまなイベントなどで利用できる多目的ホール、市の PR や活動の情報発信等を行えるギャラリーを設置します。
- カフェスペース等のある市民ロビーを設け、市民の憩い、交流の場とします。
- 会議室は市民利用も行えるよう、運用方法を検討します。

⑤市民生活の安全・安心を支える庁舎

- 大地震時にも確実に庁舎機能を維持することが可能な耐震性を有するものとし、水害や台風等にも耐える計画とします。
- 電気、水、通信等庁舎機能を維持するために必要なインフラは災害時に強い設計を行います。
- 災害時に必要となる機能・スペースを通常時にも有効活用できる無駄のない計画とします。
- 個人情報等重要なデータを確実に保全するセキュリティシステムを構築します。

⑥地球環境に配慮した省エネ庁舎

- 再生可能エネルギーを積極的に利用し、快適さを得るための化石エネルギー利用を縮減します。
- 適切な断熱や、庇等による日射の制御により、空調負荷を抑制します。
- 設備機器は高効率機器や節水型便器、LED 照明等、省エネルギー型の採用を検討します。
- 建物の長寿命化が容易な設計とし、再生材や地場産材の利用等、社会全体での省 CO2 化を目指します。

⑦市のシンボルとして総社らしさを感じる庁舎

- 総社市の歴史・文化・風土を踏まえ、市のシンボルとして他にはない総社らしい庁舎とします。
- 総社市で生産された建材やゆかりある技術を取り込む地産地消を検討し、永く市民に愛される庁舎とします。
- デジタルサイネージ(※1) など、総社市の魅力を伝える情報発信機能を整備します。

※1 デジタルサイネージ：従来の看板や紙のポスターに代わり、液晶ディスプレイや LED などのデジタル映像機器を使って情報を発信するシステムの総称。デジタル化されたコンテンツを組み合わせることで表示を簡単に変えることができるため、屋外・店頭・公共空間・交通機関・オフィスなど様々な場所で活用されている。